

広島市教育センター所報

No. 8
昭和56年10月

広島市教育センター
広島市東区牛田新町一丁目17番1号
〒730 電話：(0822) 23-3563

国際障害者年におもう

広島市児童総合相談センター

療育指導課長 片岡省吾

国際連合第31回総会（昭和51年）は、5年後の本年を「完全参加と平等」をテーマとする「国際障害者年」とすることを、全会一致で決議した。更に、第34回総会（昭和54年）では、国際障害者年の諸活動のための、大項目20、小項目64に及ぶ「国際障害者年行動計画」を採択している。

行動計画が示す諸原則のうちのいくつかを紹介することによって、子ども達の発達の援助といういとなみにかかわっているわれわれの、今後のあり方について考える指針を得たいと思う。

まず、第一に「障害」とは、『個人の特質である「身体的・精神的不全(impairment)」と、それによって引き起こされる機能的な支障である「能力不全(disability)」、そして、能力不全の社会的結果である「不利(handicap)」の間には区別がある。』（行動計画A-62）としてしていることである。更に、「障害という問題を、ある個人とその環境との関係としてとらえることが、ずっとより建設的な解決の方法である。」（同上A-63）ともいっている。

第二は、「障害者は、その社会の他の者と異なったニーズを持つ特別な集団と考えられるべきではなく、その通常の人間的なニーズを充たすのに特別な困難を持つ普通の市民と考えられるべきなのである。」（同上）というこ

ろえ方である。

これらを要約すれば、能力不全を「不利」にならしめている社会的条件を見つめることの重要性を示しているといえる。

このことに、更にことばを加えるならば、一言で「障害」と表現されている中の handicap という部分では、障害児（者）に対して何かを「してあげる」のではなく、彼らにとっての社会的条件の一部を占めるわれわれ自身を、「どのように変えていくか」という視点で行動しなければならないということである。

学校教育という分野における現状を眺めるとき、自己を含めた現状を固定的にとらえ、その枠組に当てはまらない子ども達を対象外のものとしてみている部分が全くないとはいいきれない。障害児だけでなく、すべての子ども達の求めに応じて自己を変え、そのための研さんを積む努力の必要性についての再認識について、障害者年は一つの示唆を与えてくれている。

国際障害者年は、単なる障害者の「ための」運動ではなく、障害者を含む全人類の安定とそのための平和を希求するという、人間に対する尊敬と深い愛情、更に強い信頼を底流としてもっている。そして、このことが人と人とのかかわりである教育の基盤そのものでもあることに思いをいたしたいものである。

青少年を育てる

——大人として歩むべき道——

広島市教育センター次長 溝口二郎

最近の子供の問題行動、とりわけ校内暴力、家庭内暴力を見聞きするにつけ、子供の心がむしばまれつつある今日の世相に胸が痛む。

この非行の原因はと尋ねれば、親たち大人たちは、学校の指導のあり方に問題があると言い、教師たちは、その原因の多くは家庭内にあると言う。共通していることは、社会の風潮を反映した根の深い問題であるという認識だけである。

この問題の解決の道を模索する間にも時間は過ぎ、子供たちは自分の非をさとすることもなく、そのまま大人になってしまうのである。今、私たちにとって大切なことは、子供たちを非行に導く社会も、私ども親たち大人たちが作っていることを自覚するとともに、子供たちの環境改善のために行動を起こすことである。即ち、最善の策でなくて結構、現実を直視した次善の策を着実に実行して行くことである。

そのためには、子供を取り巻く親が、教師が、そして大人たちが、歩むべき道を一日も早く見つけることが重要である。そのとき、次に述べる考え方も大切な点ではあるまいか。

1. 家庭での生活を大切にしたい。

(1) 家庭の温かみを味わわせたい。

子供が勉強に疲れて一休みをしたくなったところ、「お茶が入りましたよ」の声で、家族全員が一室に集まってお茶をいただく。客人があれば、客人もいっしょに。そこに心のかような家族の絆があり、そこに親子の対話があり、家庭の温かみを感じるのである。

(2) 基本的な生活用語を身につけさせたい。

「や、どうも」の一語で、すべてをすませようとする傾向の強い今日であるだけに、ぜひとも、次の4つの基本的な生活用語が、心をこめて使い分けられるようにさせたい。

はい、いいえ、

ありがとう、すみません、

言葉使いだけでなく、親の生活態度は、必ず子供に移る。心したいものである。

(3) 親の自戒が子供を守る。

例えば、車のキイは子供に絶対渡さない、夜食だけは必ず親が作ってやる、夜間家にかかってきた電話には必ず親が出る、など、今すぐにできることの中から自戒を立て、それを永く守り続けて行きたい。子供の気付かないところで子供を守ること、それが親の務めである。

2. 学校の生活を明るくしたい。

(1) 授業のわかる子供には笑顔がある。

子供は1日の約3分の1の時間を学校で過ごす。その大部分は教科等の授業である。子供にとって授業のわかることがどれほど楽しいことが、教師の力量の発揮できるところである。

(2) 背中で教え、胸に抱きこむ教師でありたい。

子供が親の後ろ姿を見習うがごとく、子供に手本を態度で示す教師でありたい。悩みを持たない子供はいない。子供が悩みを打ちあけて話してくれる、そんな教師でありたい。親は教師を信じて、わが子を託しているのであるから。

3. 地域の教育力を生かそう。

親の目も教師の目も届かない家庭外・学校外の子供の活動は、だれが支えてくれているのか、だれが見守ってくれているのか。生活の知恵として築き上げられてきた地域の教育力を、ぜひ子供の教育に生かそう。

4. 責任のなすりあいはいは、もうやめにしよう。

「うちの子に限って、そんなはずはない。友だちが悪い。社会が悪い。そんなことをさせた学校は、なお悪い」この言葉は、今夜は禁句にしよう。

「次善の策を着実に実行していくために、あなたには、なにができませんか?ではなく、「私は、こうします」と、親と教師と大人たちが、手を取り合って立ち上がって行きたい。

教職活動に関する自己診断について

—新規採用教員のアンケートより—

当教育センターでは、7月下旬に開催した研修講座において、本年度採用された教員を対象に教職活動についての自己診断調査を行った。

診断調査項目は、教職活動に対する意欲、生徒指導などに関する20項目で、それぞれ「だいたいある」「どちらかというところある」「かなり不足している」「どちらかというところ不足している」の四つの選択肢によって自己評価を行った。

その結果を考察するにあたって、自信をもっているものを上位意識、もたないものを下位意識とした。自己評価に表れた数を百分率換算し、上位意識の65%以上を「力量がある」、下位意識の65%以上を「力量が不足している」ととらえた。

それによると、「力量がある」と考えているものは次の5項目である。(数字は診断項目番号)

- 2. 子どもと共に行動する情熱
- 20. 先輩・同僚との協力姿勢
- 1. よりよい自己をつくる努力
- 4. 自己の課題の把握
- 3. 広い視野から考える意欲

一方、「力量が不足している」と考えているものは次の6項目である。

- 5. 的確な発問
- 8. 教育機器の活用
- 13. 問題をもつ子どもの指導
- 12. 学級集団の育成
- 6. 板書の工夫
- 18. 指導案の作成

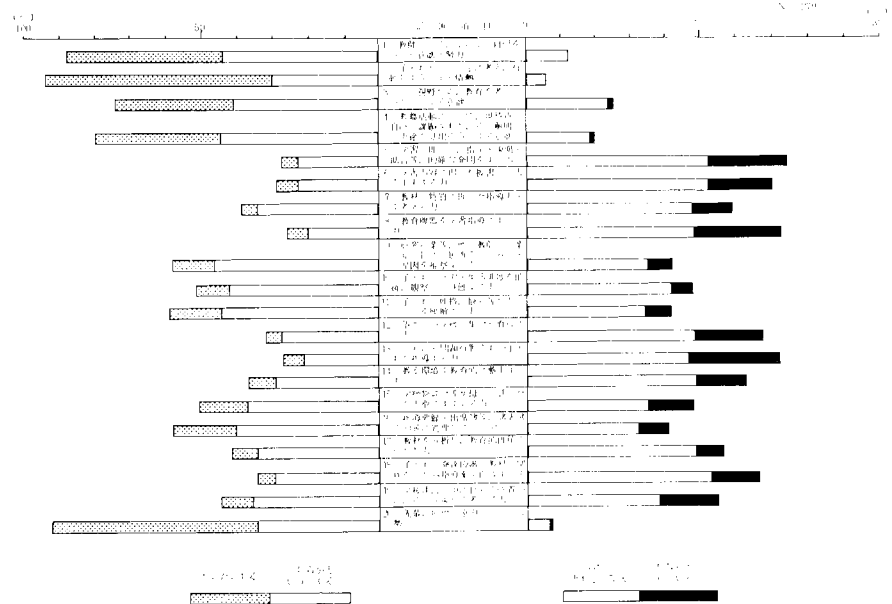
これらのことから、「力量がある」と答えているものは、教職活動についての情熱にかかわるもので、教育実

践の意欲・情熱にはかなり強い自信と意気込みをもって臨んでいることがわかる。

他方、「力量不足」と思っている項目は、主として、発問、板書、教育機器の活用など授業のすすめ方にかかわるものと、学級集団の組織・指導にかかわるものである。なかでも、いわゆる問題をもつ子の指導 及び的確な発問をする力などに「かなり不足している」と答えているものが20%もいる。また、表の中に表れていないが、13のいわゆる問題をもつ子の指導について、女子教員の80%のものが何らかの形で指導力不足を感じていると答えている。

こうしてみると、教育に取り組む姿勢・情熱などは高い意欲を示しているが、授業にかかわって継続的な実践、研究的努力を必要とする分野では、多くのものが指導力不足を感じているといえる。

教職活動についての自己診断



中期分（7月・8月）の研修講座をふりかえって

7月・8月は、子供達にとっては、期待に胸をふくらませる楽しい季節です。私達、教職員は、この時期こそ、じっくりと腰をすえて、充実した研修に取り組むことの出来る絶好の機会でもあります。当教育センターでは、この時期を中期分として、日数にして32日、30の研修講座を実施しました。参加者は、2,290名(延べ6,233名)の多きに達し、どの研修会場にも熱心な先生方の姿を見ることができました。実施した講座の2, 3を紹介します。

新規採用教員を対象とする講座は、学級経営学習指導を内容として6日間、小学校と中・高等学校別に実施しました。大学の先生による講義、現場のベテランの先生方による実践発表、指導主事をまじえての目標分析や指導案の立案など多彩で、終日、若さと熱気で終始し、明日からの授業への意欲をうかがうことができました。



中学校理科実験講座(極楽寺山にて)

小学校・中学校を対象とする実験・実技講座は、各研究会との連携のもとに行うもので伝統も古く、参加者が多いため市立学校を会場として実施しました。直接、授業に生かす教材研究や実技のため、どの先生方も暑さを忘れ真剣な態度で取り組んでおられました。

同和教育講座は、2日間(全日)講義を中心として、同和教育の認識、今日的な課題、学級集団づくりの実践や、実態をふまえての真しな取り組みの発表があり、深い感動と多くの示唆があり意義ある講座となりました。

生徒指導講座では、大学の先生より、生徒理解の実際的な手法について講義を受けました。その後、参加者の先生方により、問題行動



小学校図画工作実技講座(南観音小にて)

の事例の中から、課題や問題点について、グループ毎に研究協議を行い、指導のあり方についての学習を深めました。事例が多岐にわたりあらためて、指導の難しさを浮き彫りにされました。

講座及び校種別参加者数

中期分(7月・8月)

講座名	講座数	校種					計	
		小	中	高	幼	社教		
小・中・高等学校 新規採用教員研修講座	2	177	100	7			284	
新任教頭 管理職研修講座	1	22	8	2	3		35	
新任校長・園長 管理職研修講座	1	20	6	1	2		29	
中学校 教科指導講座	4		87				87	
生徒指導講座	2	98	22	2			122	
中・高等学校 体育的クラブ活動指導講座	1		18	6			24	
幼稚園教育研究講座	1				26		26	
障害児教育研究講座	1	93	9				102	
教育相談講座	1	20	12	6			38	
同和教育講座	1	102	12		10		124	
社会教育研修講座	1					11	11	
小学校・幼稚園 実技・実技講座	8	1,149			143		1,292	
中学校 実験・実技講座	6		116				116	
計	30	32	1,681	390	24	184	11	2,290

新採用教員研修講座に参加して

この夏、新規採用教員を対象とした講座の第1回目（内容は学級経営）の直後、数多くの感想をいただき、その熱心さに景仰しております。

◆ 「やる気」を育てる学級づくりへの決意

瀬野小学校 柚木早苗先生

受講している間、それぞれの先生方の話を自分自身や、自分の学級や、学級の子ども一人一人におきかえたり、またそれらを思いうかべたりしながら聴かせて頂きました。

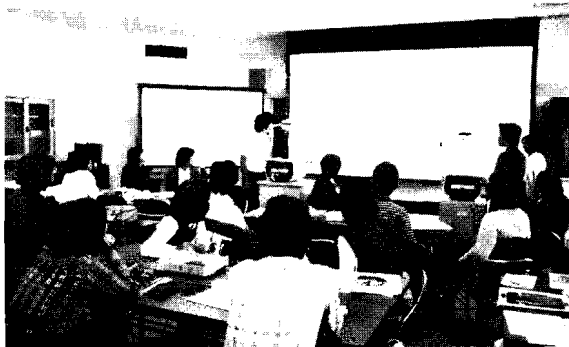
中でも、指導者の先生（6年先輩教師）の「やる気を育てる学級経営」についてのお話で出た様々な実践例は、単なる理論でなく、汗や涙を伴う実践から生まれたものであっただけに、何よりも、私自身の「やる気」をよび起こしていただいたと思います。「子どもと同じ立場に立つということは、常に新しいものを追い求めることであり、それを実践することなのだ」という言葉がとても印象に残っています。

これまで、与えられることが多く、求める姿勢に欠けていた自分をふり返り、これからは、自分自身で求め、子ども達の良きリーダーになりたいと思います。

◆ 理論だけで終らず、まず実践

毘沙門台小学校 高橋久美子先生

大学の先生や校長先生、先輩教師、指導主事の方々の話を聞いて、自分は何をしてきたのだろうかと思問自答してみた。頭の中であれこれと考えているばかりで、実行に移す勇



新採用教員研修講座(分科会)



新採用教員研修講座(全体会)

気を持ちあわせず終わってしまったことや、「どうしよう」と気持ちばかりあせり、「こうしてみよう」という対策を考えないで悩んでいたことばかり出てくる。こんな悩みは、甘え以外の何ものでもない。ぶつかってみなければ先のことはわからないのに、やる前に失敗を恐れて尻込みしてしまう自分の心の弱さに、今さらながら恥ずかしくなった。

これからは、勇気を出して実践していかなければと思う。『日々新しい課題に取り組み、そこで壁にぶつかって大いに悩み苦しみを解決していくこと、これが教師の真の姿であり、それが子どもに通じることによって、教師も子どもも成長する』といわれた先輩教師の言葉が耳の奥に残っており、努力したいと考えている。

◆ 教育者としての信念をもつ

祇園東中学校 竹本裕之先生

今まで教師として信念が定まらず同僚の考えや、やり方を借物として真似ているところが多かった。これからは、教育者としての信念にもとづき、先輩の良いところを吸収して活きた学級経営を見つけていこうと決心した。

講座の後半に研究協議があり、新採用教員の共通の悩みも出され、お互いに努力しようという盛り上がりがあり連帯感が生まれた。

教育センターニュース

◆ 心を和らげる観葉植物

教育センター内のロビーや各研修室に、授産施設の温かい奉仕によって、鉢植えの観葉植物が置かれております。

これは、五日市町皆賀にある広島市立皆賀授産所（山崎昭三所長）が入所者の訓練



広島市立皆賀授産所

（車から荷おろしされている観葉植物）

指導科目の一つとして園芸活動を行っており、シロチク、カボック、カジマール、その他ヤシ科植物など200余種の鉢栽培活動が行われています。これを有料貸鉢として、毎月定期的に教育センターに届けられているものであります。毎月変わる観葉植物が、多くの来所者の心を和らげています。謹んで感謝の意を表します。

◆ 教養講座のお知らせ

講師 楠本憲吉（作家・俳人）

演題 「心を耕す」

日時 昭和56年12月2日（水）14：00～16：30

場所 広島市教育センター（第1研修室）

対象 広島市立小・中・高・幼教職員、広島市立看護専門学校教職員、社会教育関係職員

—講師のプロフィール—

慶応義塾大学法学部卒業、日本近代文学館常任理事ほか作家関係役員兼任、著書多数、テレビ・ラジオでも活躍。

演題の「心を耕す」の言葉が新鮮に聞こえます。多数の御参加をお待ちしています。

◆ 人事異動

転出 西 洋雄主任指導主事（9月1日付 矢賀小学校長へ）

◆ 図書資料室より

たくさんのお書が入りましたのでお知らせします。ぜひごらんください。

教育とは何か 五十嵐良雄ほか著 三一書房
教育は死なず 若林繁太著 労働旬報社
生徒指導の基礎知識 笠間達男ほか著 学事出版
授業の最適化入門 中嶽治磨著 明治図書
教育基本法文献選集（全9巻） 学陽書房
倉橋惣三選集（1巻～4巻） フレーベル館
遊びと幼児期 西頭三雄児著 福村出版
子育てのみちすじ 河添邦俊著 ミネルヴァ書房
講座 教育臨床 高野清純ほか著 日本文化科学社
心理面接の技術 前田重治著 慶応通信
公民館経営ハンドブック 日常出版
ミリオーネ全世界事典（全14巻） 学習研究社
日本思想史講座（全9巻） 雄山閣
日本の歴史（全32巻） 小学館
子ども日本風土記（全47巻） 岩崎書店
土門拳 日本の彫刻（全3巻） 美術出版
書道技法講座（全43巻） 二玄社

など、「教育一般」教育学・教育思想「教育政策・制度・行財政」関係約90冊、「学校経営・管理」「教育課程・学習指導・教科別教育」関係約200冊、「幼児教育」関係約30冊、「特殊教育」関係約30冊、「社会教育・家庭教育」関係約90冊、その他「歴史」「自然科学」「芸術」「言語」「文学」など約600冊のお書が入りました。

なお、市内の学校や他県の教育センター等から、研究集録、研究紀要等の資料も入っていますのでご利用ください。

—編集後記—

▲中期分の研修講座には、酷暑にもかかわらず延べ6千人を超える多数の御参加があり、先生方の熱意のほどがうかがわれました。